

1. 授業の概要(ねらい)

普段、何げなく見ている作品であっても、自分では気づかない作り手の工夫が数多くある。また、過去のさまざまなジャンルの作品を参考にしていたり、同時代の日本社会の在り方をも反映している。日本を代表する作品をセレクトした上で、日本のマンガ・アニメーションの独創性について考えていく。

2. 授業の到達目標

1. 日本文化という視点からマンガとアニメーションを分析して、作品や時代背景などに関する専門的な知識を身につける
2. 海外の作品と比較することで、日本文化としてのマンガやアニメーションについて考えられるようにする

3. 成績評価の方法および基準

期末レポート40%、平常点(毎回のリアクションペーパー)60%

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書:なし

参考文献

山田奨治編著 『マンガ・アニメで論文・レポートを書く 「好き」を学問にする方法』(2017) ミネルヴァ書房

5. 準備学修の内容

次回に取り上げる作者もしくは作品について、作品が制作された当時の社会的・政治的な出来事をメリックの書籍やネットを使って調べ、時代背景を把握したうえで授業に臨むこと。
授業内で取り上げた作品は、授業後に視聴しておくこと。

6. その他履修上の注意事項

- ・受講生の興味や著作権上の関係から、取り上げる作品を変更することもある。
- ・第15回目のオンライン回の実施日については、授業内で別途指示する。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス マンガとアニメーションを日本文化として捉えなおす
- 【第2回】 政岡憲三『くもとちゅうりつぷ』 一観察眼による写実的な描写
- 【第3回】 大藤信郎の影絵アニメーション ー海外で評価された日本アニメーション
- 【第4回】 東映動画の『白蛇伝』
- 【第5回】 海外との比較① フランス
- 【第6回】 手塚治虫のリミテッド・アニメーション
- 【第7回】 手塚治虫『鉄腕アトム』
- 【第8回】 出崎統によるリミテッド・アニメーション
- 【第9回】 宮崎駿『ルパン三世 カリオストロの城』
- 【第10回】 高畑勲の足跡
- 【第11回】 押井守『攻殻機動隊』
- 【第12回】 海外との比較② チェコ・スロバキア時代
- 【第13回】 庵野秀明① 特撮からアニメへ
- 【第14回】 庵野秀明② アニメから特撮へ
- 【第15回】 (オンライン回)日本文化としてのマンガとアニメーション